

自治指導員・役員・賛助会員研修会

テーマ： コロナ禍をビジネスチャンスに

中央区食協（二永展嘉会長）と中央区保健所は10月3日、銀座ブロッサムで自治指導員・役員・賛助会員研修会を開催し、45人が受講した。

榊柴田書店「月間食堂」編集長の通山茂之氏が、「これから先をどう読み、動くか もがいた1年、みんなのチャレンジ」と題して講演、コロナ禍における飲食店の取り組み事例を紹介した。

通山氏は、多くの飲食店が始めたテイクアウトについて、「お店の立地条件で売り上げに差が出た」として、複数店合同で行うテイクアウトのメリット、エスニックやハワイアンなどの人気メニューを提示。「家庭で作れない商品や、冷凍・小分けが可能など、主婦の立場に立った商品が売れ筋だった」と成功のポイントを説明した。

アフターコロナを見据え、「社会は変わるが飲食の根本は変わらない。ニーズは戻ってくるので、味だけでなく食べ方の提案をするなど、お客様のために何ができるかを見直すチャンスにしてほしい」と語った。



開催にあたり挨拶する二永会長

